

ゲル係数とも生活水準とも関係があると見られる主な要因をとって、それぞれの関係について相関分析を試みた。

2. 材料は総理府統計局：消費実態調査による都道府県別1世帯平均のエンゲル係数を用い、これを X_1 とし、これに作用する要因として、 X_2 実収入、 X_3 食料価格地域差指数、 X_4 食料の質、 X_5 扶養負担指数、 X_6 女子の教育程度、 X_7 第一次産業就業人口の割合をとった。

3. この結果、エンゲル係数と他の要因との単純相関係数は、 $r_{12} = -0.689$, $r_{13} = -0.451$, $r_{14} = -0.255$, $r_{15} = +0.531$, $r_{16} = -0.495$, $r_{17} = +0.479$ であるが、これらを全体として考え、それぞれエンゲル係数を決めるのにどれだけの影響をもつかを確かめるために偏相関係数を出した。それは $r_{12 \cdot 34567} = -0.544$, $r_{13 \cdot 24567} = -0.168$, $r_{14 \cdot 23567} = +0.296$, $r_{15 \cdot 23467} = +0.087$, $r_{16 \cdot 23457} = -0.420$, $r_{17 \cdot 23456} = -0.332$ で、ここで一番強い力をもつのは実収入である。また、多元相関係数 $R^2_{1 \cdot 234567} = 0.610$ となる。これらの関係を考慮して多元回帰直線をかくと、 $X_1 \cdot 234567 = 59.792 - 0.0002X_2 - 0.082X_3 + 0.228X_4 + 0.018X_5 - 1.016X_6 - 0.050X_7$ となった。

この研究は資料の制限もあり、計量上の指標のとり方にも幾多の問題を残しているが、エンゲル係数の決定要因を検証する1つの試みとして報告するものである。

C-11 エンゲル係数とこれに作用する主な要因との関係についての1考察

お茶の水女子大 伊藤 秋子

1. 生活水準を測る指標としてエンゲル係数がよく用いられるが、エンゲル係数が適確に生活水準を表わすかどうかについては問題がある処である。そこでエンゲル係数が何によって決定されるかを明かにするため、エン